（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	たいむクラブ八幡東			
○保護者評価実施期間	令和　７年　１月　１５日		～	令和　７年　２月　１０日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	1	（回答者数）	1
○従業者評価実施期間	令和　７年　２月　１日		～	令和　７年　２月　１０日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和　７年　２月　１５日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日の活動内容を5領域を踏まえた上で作成している。利用者の得意・不得意なことを把握しながら、それぞれに合ったやり方で活動に参加できるように支援している。	同じ活動内容でも、利用者一人一人に合わせた内容を提示している。 簡単なことからはじめ、少しずつレベルアップできるように課題を工夫している。 できた時の達成感を感じ、さらに前に進めるように支援を行なっている。	一人一人の個性にも配慮しながら、活動に取り組んで行く。 集団で過ごす中で、年上の子の行動を見て、真似をしながらも成長が図れるように取り組んで行く。
2	集団療育で社会性・協調性を育てつつ、個別支援でその子の特性や課題に寄り添っている。	個別支援計画に基づき、集団活動の中でも一人ひとりの目標にアプローチしている。 集団が苦手な子には、「見学」「部分参加」など段階的に関われる仕組みをつくっている。 同じ活動でも目的別（感覚・言語・協調など）に関わり方を工夫している。	個別と集団をつなぐ、「中間の活動」の導入。 集団療育と個別指導を組み合わせることで、子ども一人ひとりが「自分らしく、でも周りと関わりながら」成長できる活動を充実させていく。
3	身体と感覚を使った「原体験」、農業体験・食育プログラムの実施。土に触れる、野菜の匂いをかぐ、触ってみるなどの感覚刺激を養う。食べることの喜びや関心を育みつつ、クッキングを通して手を洗う・座って待つ・道具を使うなど、日常生活に必要な力を楽しみながら身につけられる。	レナファームの畑（有機栽培）で大自然に触れ、季節の野菜を育てている。 収穫した食材を使ってクッキングを実施。	旬の食材・季節行事を通して文化への興味を育てる。家庭と連携し、食経験を共有。 「育つ・食べる・つくる」のプロセスのなかで、五感や手先を使う経験、感情や他者とのやりとりが自然に育まれ、未就学の時期にこそ大切な「体験を通した育ち」を実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子ども、幼稚園、保育所等との交流の機会が少ない。	保育所や幼稚園等との交流の機会として、芋ほり体験を実施しているが、それ以外の交流の機会が設けられていない。	近隣の保育所、幼稚園との連絡会を設ける。 交流イベントの企画、開催。
2	保護者同士の連携や交流の機会が少ない。	コロナ禍以降、イベントや集まりが減少している。 保護者が多忙で交流の時間が取れない。	小規模な交流の場をつくる（お茶会などの開催）。 保護者向けイベントの開催（勉強会＋座談会）。 など、保護者同士のつながりを支援する工夫をしていく。
3	非常時マニュアルの保護者への周知。	職員間ではマニュアルが周知されているが、保護者への説明・共有が十分でない。	マニュアルの「見える化」と配布。ホームページやSNS等を活用して周知していく。